

令和6年度 看護学部(2年生) DP 達成度自己評価結果

期間：2024年11月27日～2025年1月31日

対象：2024年度に在籍する2年生(131人)

方法：DP達成度ルーブリック評価表を用いた自己評価結果およびカリキュラム全体の総合満足度（5段階評価）について調査した。方法は、オンライン（Google Form）を用いて実施した。

(ディプロマ・ポリシー)

1. 幅広い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する知識を有している。
 - 1-1 幅広い一般教養を身につけている
 - 1-2 「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する基礎知識を身につけている
2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。
 - ①豊かな人間性と倫理観を有し、それらを反映させた思考・判断を説明できる。
 - ②科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる。
4. チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる。
5. 社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。
6. 看護学の発展に対応するために、探求心と主体性を身につけている。

調査結果：108名の学生から回答を得た（回収率82.4%）。各回答項目の詳細は以下の通りである。

A. ディプロマ・ポリシー(DP)達成度自己評価（回答者数と割合）(n=108)(表1, 図1)

ディプロマ・ポリシー（DP）達成度は、レベル1～レベル4の4段階で評価してもらった。レベル3は大学卒業時までの学修成果として身につけてほしいレベルである。

表1. R6(2024)年度 2年生による看護学部カリキュラム自己評価結果 (n=108)

評価段階		レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		平均値±標準偏差
		人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	
DP1-1	幅広い一般教養を身につけている	2	(1.9)	28	(25.9)	69	(63.9)	9	(8.3)	2.8±0.6
DP1-2	「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する基礎知識を身につけている	5	(4.6)	49	(45.4)	47	(43.5)	7	(6.5)	2.5±0.7
DP2	①豊かな人間性と倫理観を有し、それらを反映させた思考・判断を説明できる	0	(0.0)	35	(32.4)	60	(55.6)	13	(12.0)	2.8±0.6
	②科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる	4	(3.7)	58	(53.7)	39	(36.1)	7	(6.5)	2.5±0.7
DP3	あらゆる「ひと」を地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる	5	(4.6)	57	(52.8)	37	(34.3)	9	(8.3)	2.5±0.7
DP4	チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる	5	(4.6)	53	(49.1)	42	(38.9)	8	(7.4)	2.5±0.7
DP5	社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる	1	(0.9)	47	(43.5)	48	(44.4)	12	(11.1)	2.7±0.7
DP6	看護学の発展に寄与するために、探求心と主体性を身につけている	35	(32.4)	26	(24.1)	35	(32.4)	12	(11.1)	2.2±1.0

*評価段階:4段階評価法(レベル1～レベル4)

レベル3は大学卒業時に学修成果として身につけてほしいレベルを示す。レベル4はレベル3の到達度よりより良い到達度レベルを示す。

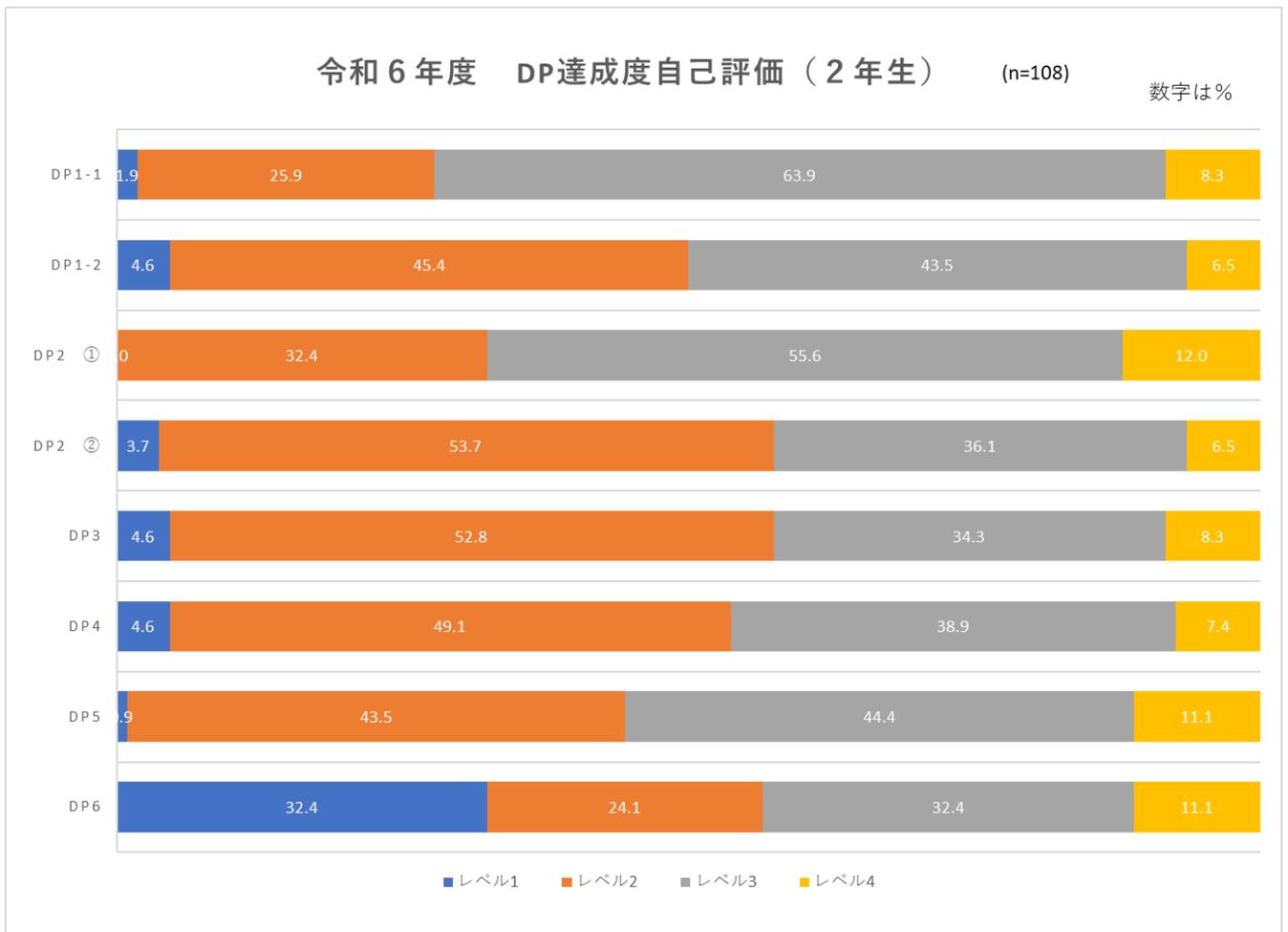


図1. R6(2024)年度 2年生による看護学部カリキュラム評価アンケートの結果: DP 評価

B. カリキュラム全体についての総合満足度

カリキュラム全体についての総合満足度は、5段階評価で 3.5 ± 0.8 であった（表2，図2）。

表2. R6(2024)年度 2年生による看護学部カリキュラム全体についての総合満足度 (n=108)

総合満足度	1		2		3		4		5		平均値±標準偏差
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	
カリキュラム全体についての総合満足度	0	(0.0)	8	(7.4)	49	(45.4)	42	(38.9)	9	(8.3)	3.5 ± 0.8

※評価段階: 5段階法(1=まったく満足していない~5=大変満足している)

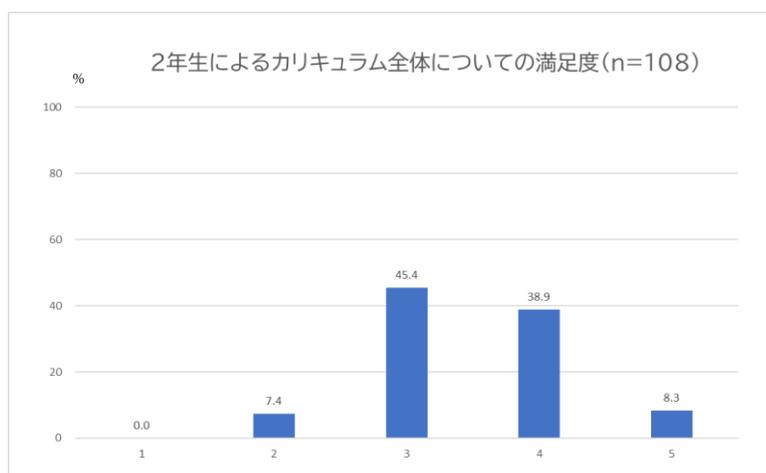


図2. R6(2024)年度 2年生による看護学部カリキュラム 評価アンケートの結果: 総合満足度

令和6年度看護学部卒業生 DP 達成度自己評価結果

期 間：2024 年 12 月 24 日～12 月 31 日

対 象：2024 年度に卒業する 4 年次学生(118 人)

方 法：DP 達成度ルーブリック評価表を用いた自己評価結果およびカリキュラム全体の総合満足度（5 段階評価）について調査した。方法は、オンライン（Google Form）を用いて実施した。

(ディプロマ・ポリシー)

1. 幅広い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する知識を有している。
 - 1-1 幅広い一般教養を身につけている
 - 1-2 「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する基礎知識を身につけている
2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。
 - ①豊かな人間性と倫理観を有し、それらを反映させた思考・判断を説明できる。
 - ②科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる。
4. チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる。
5. 社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。
6. 看護学の発展に対応するために、探求心と主体性を身につけている。

調査結果：59 名の学生から回答を得た（回収率 50.0%）。各回答項目の詳細は以下の通りである。

A. ディプロマ・ポリシー(DP)達成度自己評価（回答者数と割合）（表 1）

ディプロマ・ポリシー（DP）達成度は、レベル 1～レベル 4 の 4 段階で評価してもらった。レベル 3 は大学卒業時までの学修成果として身につけてほしいレベルである。レベル 3 とレベル 4 を合わせた結果は、DP1-1 96.6%、DP1-2 98.3%、DP2① 100%、DP2② 96.6%、DP3 94.9%、DP4 96.6%、DP5 94.9%、DP6 98.3%という結果であった。いずれも 90%を超えており高い達成度であった。特に、DP2①は、100%の学生が達成していた。

表 1. R6 (2024)年度 4 年生による看護学部カリキュラム DP 達成度自己評価結果 (n=59)

ディプロマ・ポリシー(評価項目)	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		平均値±標準偏差	
	人	%	人	%	人	%	人	%		
DP1-1 幅広い一般教養を身につけている	0	0	2	3.4	36	61.0	21	35.6	3.3±0.5	
DP1-2 「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する基礎知識を身につけている	0	0	1	1.7	45	76.3	13	22.0	3.2±0.4	
DP2	①豊かな人間性と倫理観を有し、それらを反映させた思考・判断を説明できる	0	0	0	0.0	30	50.8	29	49.2	3.5±0.5
	②科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる	0	0	2	3.4	52	88.1	5	8.5	3.1±0.3
DP3 あらゆる「ひと」を地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる	0	0	3	5.1	39	66.1	17	28.8	3.2±0.5	
DP4 チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる	0	0	2	3.4	39	66.1	18	30.5	3.3±0.5	
DP5 社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる	0	0	3	5.1	41	69.5	15	25.4	3.2±0.5	
DP6 看護学の発展に寄与するために、探求心と主体性を身につけている	0	0	1	1.7	38	64.4	20	33.9	3.3±0.5	

* 評価段階: 4段階評価法(レベル1～レベル4)

レベル3は大学卒業時に学修成果として身につけてほしいレベルを示す。レベル4はレベル3の到達度よりより良い到達度レベルを示す。

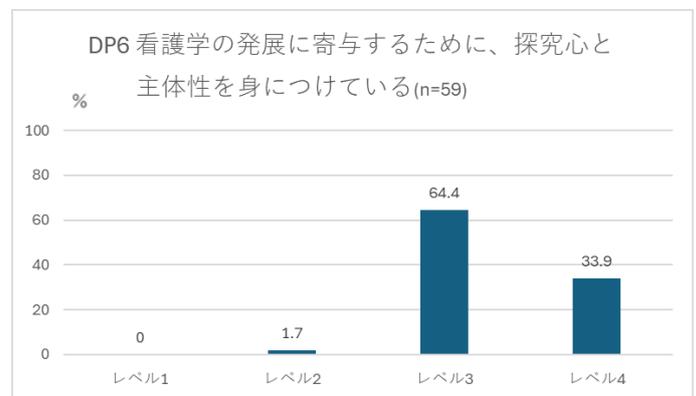
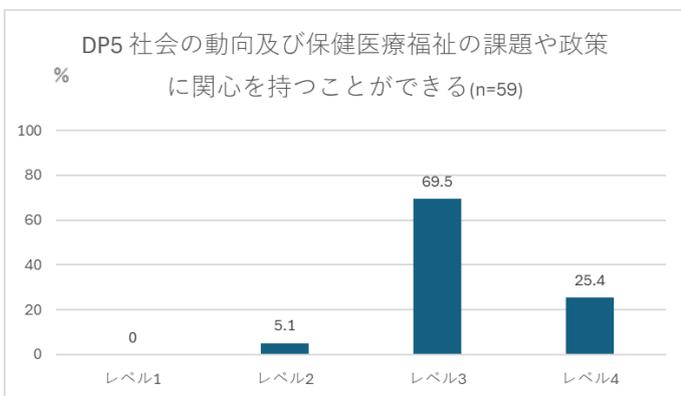
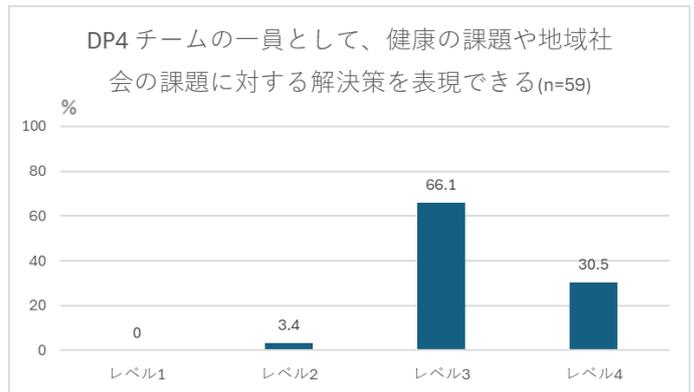
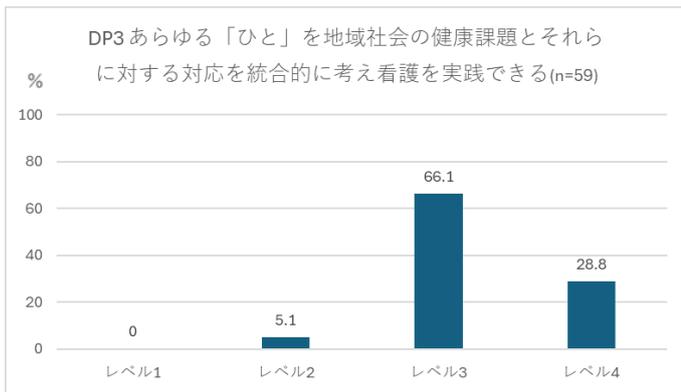
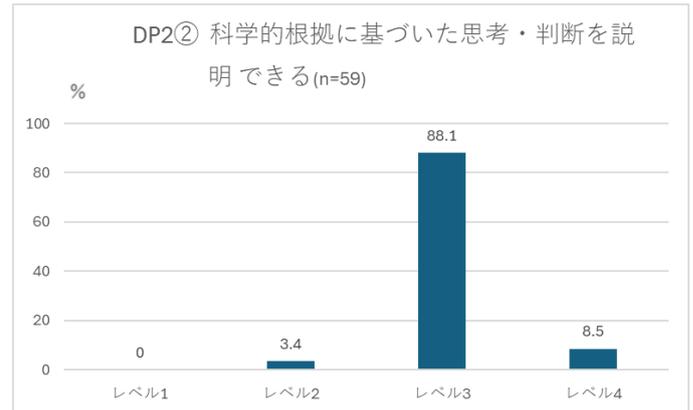
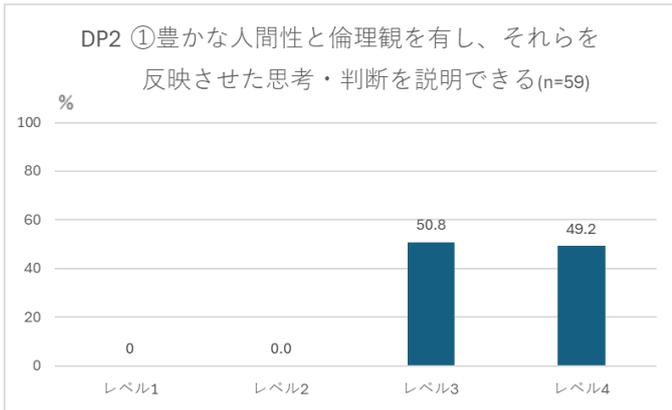
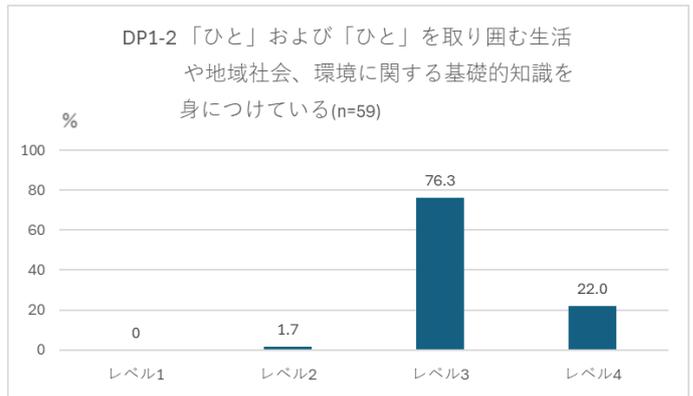
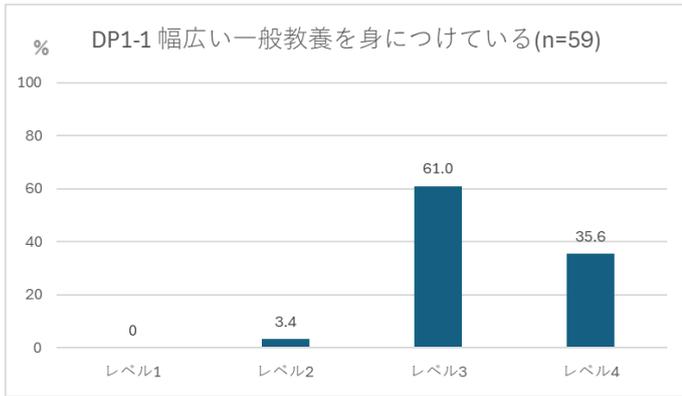


図1. R6(2024)年度 4年生による看護学部カリキュラム評価調査結果：DP達成度自己評価

令和5年度の学生との比較を以下に示す。回答者数は、令和6年度が59名(回収率59.0%)、令和5年度が63名(回収率58.9%)であり、ほぼ同程度の回収率であった。DP別の回答の傾向を比較すると、DP1-1、DP1-2、DP2①、DP4、DP5はレベル4と回答する学生が令和5年度より令和6年度の方が多いう傾向であった。DP5は、レベル2と回答する学生が令和5年度は19.0%であったが、令和6年度は5.1%に減少し、レベル4と回答した学生が25.4%に増加していた(図2)。



図2. R6(2024)年度 4年生による看護学部カリキュラム評価調査結果: DP達成度自己評価年度比較

B. カリキュラム全体についての総合満足度

カリキュラム全体についての総合満足度は、令和6年度は5段階評価で平均値 4.0 ± 0.6 であった（表2，図3）。令和5年度と比較すると、令和6年度は令和5年度に比べ、満足と回答した学生の割合が高い傾向であった（表2，図4）。

表2. R6(2024)年度 4年生による看護学部カリキュラム評価アンケートの結果：カリキュラム全体についての総合満足度(n=59)

総合満足度	1		2		3		4		5		平均値±標準偏差
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	
令和6年度 カリキュラム全体についての総合満足度	0	(0)	1	(1.7)	7	(11.9)	42	(71.2)	9	(15.3)	4.0 ± 0.6
令和5年度 カリキュラム全体についての総合満足度	0	(0)	1	(1.6)	13	(20.6)	40	(63.5)	9	(14.3)	3.9 ± 0.6

※評価段階：5段階法(1=まったく満足していない～5=大変満足している)

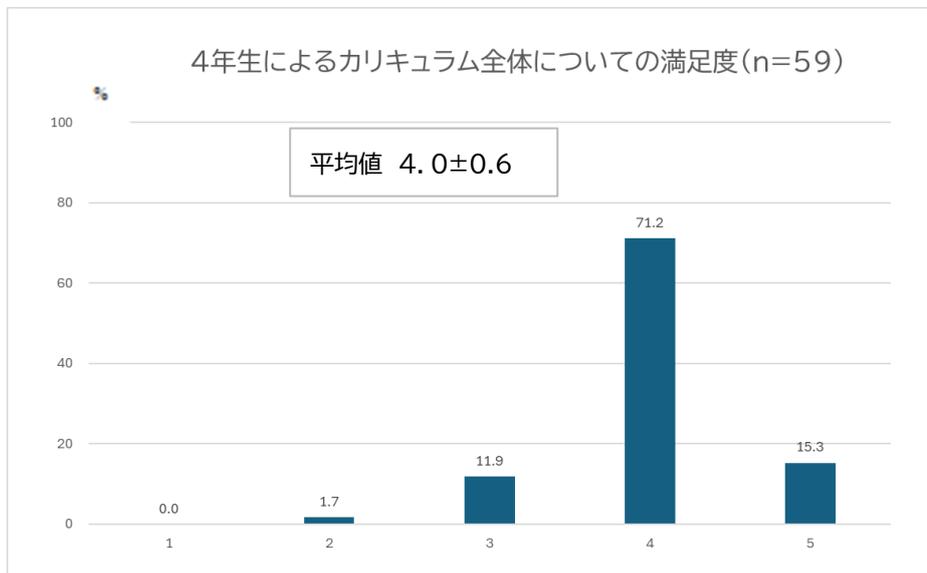


図3. R6(2024)年度 4年生による看護学部カリキュラム 評価アンケートの結果:総合満足度

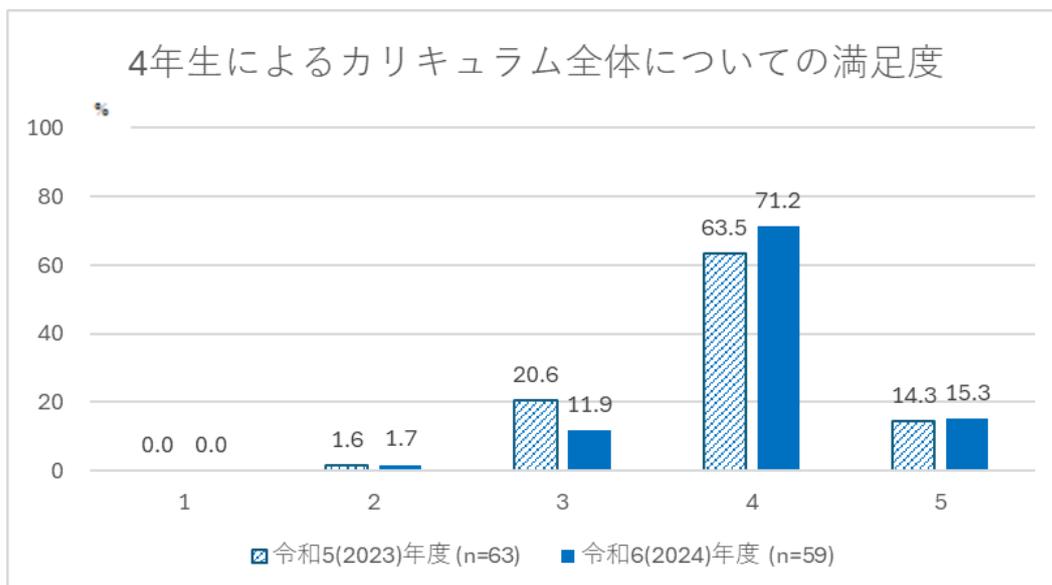


図4. R6(2024)年度 4年生による看護学部カリキュラム 評価アンケートの結果:年度比較